

共

～男女が **トモ** に **活** 躍!!～

トモ活ライフキャリア プランニングブック

活用資料

「トモ活」について詳しくはこちら ▶▶ 石川県HP <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/danjo/tomokatsu/gaiyou.html>



目 次

#1	目的	03
#2	「ライフキャリア(生涯経歴)」とは…	03
#3	男女共同参画の現状について	04
#4	高等学校における活用	05
#5	トモ活ライフキャリアプランニングブックの概要	05
#6	各テーマごとの構成	05
#7	進行例	06
#8	各テーマの要約	07
#9	各テーマの目的及び補足情報	14

#1

目的

誰もが活躍できる社会を築くためには、男性も女性も、すべての個人が互いに人権を尊重し、その個性と能力を充分発揮できる男女共同参画社会を実現する必要があります。

県では、性別にとらわれることなく、すべての人が個性と能力を発揮できる社会の実現を目指し、職場や家庭、地域などあらゆる場面において「男女がトモ(共)に活躍する」という意味の「トモ活」をキーワードとして、男女がともに意識をチェンジ(Change)し、あらゆる分野にチャレンジ(Challenge)するとともに、活躍するチャンス(Chance)を広げるための取組みを進めています。

その取組みの一つとして、次代を担う若い世代が性別にとらわれることなく、主体的に進路や職業を選択する能力を身に付け、さらに未来を展望して自分らしい生き方や働き方を考える機会を提供することを目的に、本冊子を作成しました。

#2

「ライフキャリア(生涯経歴)」とは…

「ライフキャリア(生涯経歴)」とは、仕事に限らずに、人生における家庭生活や職業生活を総合的に見てとらえた、その人の経歴(キャリア)のことをいいます。

「キャリア」ときくと、職業や仕事に関する狭義の経歴のことをイメージしがちですが、「ライフキャリア(生涯経歴)」には、職業や仕事だけではなく、家庭や地域との関わり、趣味などの日常生活や社会活動における多様な役割や経験の積み重ねも含まれます。

これからの人生を性別にとらわれず自分らしく生きるためには、「なりたい自分」を想定し、「ライフキャリア(生涯経歴)」を考えることが大切です。

参考

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。

【出典】中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)

男女共同参画の現状について

「男女共同参画に関する県民意識調査」では、現在の日本の「社会全体」における男女の地位が「平等である」と回答した人の割合は、わずかに11.6%※1でした。

その一方で、「学校教育の場」における男女の地位が「平等である」と回答した人は45.8%となり、家庭、職場、政治といった各分野と比較して、最も高い割合になっています。

また、県内の公立学校に占める教頭以上の女性管理職の割合は全国で最も高い40.3%※2となっています。このことから、職場としての学校は比較的性別にとらわれずに、人材の育成・登用が進む職場であるといえます。

しかし、県内企業や役所等における管理職に占める女性の割合は、14.3%※3となっており、この割合は増加傾向にあるものの、依然として低い水準にとどまっています。

日本全体としても同様の傾向がみられ、企業の役員や管理職等への女性の登用は十分ではなく、国際的にみても大きく遅れているといえます。（役員に占める女性の割合：諸外国 約30～45%、日本 約10%※4）

さらに、県民意識調査において、女性が働き続ける上での障害を尋ねたところ、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではない

こと」（64.7%）が最も多く、次に多かったのは、「結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（38.8%）でした。※1

こうしたことから、引き続き、職場だけでなく家庭・地域など様々な分野での男女共同参画の実現に向けた取組みを推進する必要があります。

また、県内の子どもがいる共働き世帯における家事・育児の時間を夫婦で比較したところ、妻のほうが圧倒的に長く、現状では、家事・育児は妻に偏っています。逆に見ると、家事・育児を妻と協働して行わないからこそ、夫は長時間仕事に専念しているといえます。（夫：家事関連時間38分／仕事等時間7時間56分、妻：家事関連時間4時間35分／仕事等時間5時間29分※5）

本教材を活用いただく際には、家族や先生、周りの大人の話（性別にとられないキャリア形成や、家事・育児・介護などの分担と協働に関することなど）を聞くと、より一層理解が深まることと考えます。

- 【出典】 ※1 石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」令和2年度
 ※2 文部科学省「令和3年度公立学校教職員の人事行政状況調査」
 ※3 総務省統計局「令和2年国勢調査」
 ※4 内閣府男女共同参画局「女性役員情報サイト」<https://www.gender.go.jp/policy/mieruka/company/yakuin.html>
 ※5 総務省統計局「令和3年社会生活基本調査結果」

#4

高等学校における活用

高等学校学習指導要領(平成30年告示)に記載されている以下の授業で活用できます。

- 家庭基礎「青年期の自立と家族・家庭」
- 特別活動「一人一人のキャリア形成と自己実現」
- 家庭総合「青年期の自立と家族・家庭及び社会」
- 就業体験活動の導入や振り返り

※「キャリア・パスポート」を補完する資料として活用できます。

#5

トモ活ライフキャリア プランニングブックの概要

これからの人生で考えられる出来事に関して、データや知識、情報を提供することで、自身の生き方を具体的にイメージするきっかけを作っています。

#6

各テーマごとの構成

テーマ	今後起こりうるライフイベントごとにテーマを設定
導入質問	テーマについて考えるためのきっかけとなる質問
データ	テーマについて考えるときに参考になるデータ
コラム	テーマについての理解をより深めるための知識や情報
ディスカッションポイント	グループで話し合うための議題
メモ	ディスカッションを通じて学んだこと、気づいたことなどを記入します
トモ活ライフプランニングシート	全テーマ終了後などに、具体的に将来の自分をイメージするために使います

#7 進行例

50分授業で 1テーマを扱う場合の 進行例は次の表のとおりです。

- 扱うテーマ数を増やして、ディスカッションポイントを抜粋する、導入質問を事前課題として、グループワークの時間を増やすなど、適宜、調整をしてください。
- 進行例は、アクティブラーニングを基本とし、グループ・ペアワークで他の人の意見を知ることができるように配慮しています。
- 本体(生徒用)45ページは40歳ごろまで自分の人生を想像してもらう「トモ活ライフプランニングシート」です。全テーマまたは抜粋したテーマの授業終了後、シートを作成する授業を実施するとより効果的です。

場 面	時間	本体(生徒用) 該当部分	内 容
①導入・趣旨説明	2分		<ul style="list-style-type: none"> ● この授業の目的を、本ツールの14ページ以降、テーマごとに記載している「目的」欄を参考に伝えます。
②個人ワーク1	5分	導入質問	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒各自が導入質問について考えます。 ● “一つの答え”があるものではないことを伝えます。
③グループワーク1	5分	導入質問	<ul style="list-style-type: none"> ● 2～4名程度で、導入質問に対する考えを共有します。
④講義	20分	データ ・ コラム	<ul style="list-style-type: none"> ● データ、コラムを生徒各自が読みます。 ● データやコラムについてどう思うか問いかけ、何人かの生徒に発表させます。 ● 本活用資料の補足情報などを参考に、適宜補足説明をします。
⑤グループワーク2	10分	ディスカッション ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ● ディスカッションポイントについて、③グループワーク1のメンバーで意見交換を行います。 ● 自分の考えを発表するとともに、他の人の意見を知ることにより、考えを深めます。
⑥個人ワーク2	5分	メモ欄	<ul style="list-style-type: none"> ● この授業で気づいたことや考えたことなどを記入します。
⑦共有	3分		<ul style="list-style-type: none"> ● 授業を通しての気づきやグループワークで印象的だったことなどを、何人かの生徒に発表させます。

Q1. どうやって進路を決める？

データ1 < 進路に関する価値観 >

- 進路について「将来は役に立つ資格を身につけたい」「収入や雇用が安定している仕事をしたい」「将来は手に職をつけて仕事をしたい」と思う高校生が多い
- 男女差が大きい価値観は、「奨学金制度を活用して進学したい」「できるだけ学費の安い学校に進学したい」。いずれも女子生徒のほうが回答割合が高い
- 「できるだけ早く社会に出て働きたい」は、男女とも4割超

データ2 < 高校生の進路 >

- 高校卒業後は、大学や短期大学などへ進学が男女とも5割超で最多
- 高校卒業後に就職する人は、男性約2割、女性約1割

データ3 < 進学の目的 >

- 進学目的は、「学歴や資格を得る」が最多
- 目的をもって進学先を選ぶことが充実した学生生活につながる

データ4 < 入学先別入在学費用 >

- 卒業までの授業料等は、国立大学約242.5万円、私立大学文系約407.9万円、私立大学理系約551.2万円
- 授業料や生活費等の合計は、アパートなどから通う場合、私立大学文系では約879.2万円、理系で約1,022.5万円、国立大学では約732.6万円
- 進学費用はかかるが、学歴を積むほうが高収入になる。さらに、進学先での経験がその後の人生に活かせることもある

コラム < 奨学金を使って進学することもできるよ！ >

- 大学生の約半数が奨学金を利用
- 日本学生支援機構の奨学金や国の「高等教育の就学支援新制度」の紹介

< ディスカッションポイント >

- 何を大切にしながら進路を選ぶか考える

Q1. 何を大切にして仕事を選ぶ？

データ1 < 就職先を選ぶときに重視すること >

- 県内大学生は、男女とも、休日・休暇の取りやすさや給与水準、福利厚生を重視している
- 仕事と家庭の両立を重視する男性は女性の半分以下で、男女で大きな差がある
- 高校や大学を卒業し、就職後3年目までに辞める理由は、労働時間、休日、休暇の条件がよくなかったためが多い
- 職業選択の際、理想の働き方や生き方を考え、仕事内容や職場を就職前によく知る必要がある

Q2. 生活していくうえで何を大切にする？

データ2

< 「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度【希望】 >

- 県内の20～45歳では「仕事と家庭生活と個人の活動・地域生活ともに優先」したいと思う人の割合が、男女ともに最多
- しかし、実際には、仕事を優先する人が多い

< ディスカッションポイント >

- 何を大切にして仕事を選ぶか考える

Q1. 結婚とは？

データ1 < 将来的な結婚願望 >

- 県内の20～45歳の未婚者では、男女ともに約6割が結婚願望あり
- 結婚の良い点は、自分の子どもや家族を持つことができると考える人が多い。一方、独身生活のほうが自由だと考える人もいる

Q2. 結婚する年齢は？

データ2 < 平均初婚年齢 >

- 全国的に平均初婚年齢、未婚率が上昇傾向。晩婚化・未婚化が進行
- 県の令和3年の平均初婚年齢は昭和50年と比べ、男性は約4歳、女性は約5歳上昇

データ3 < 結婚したときの年齢(初婚、石川県) >

- 県内では、男女ともに27歳で結婚する人が最多。全国的にも同様の傾向

コラム < 好きな人やパートナーが異性とは限りません >

- 性の多様性の説明
- パートナーシップ宣誓制度の説明

< ディスカッションポイント >

- 家族について考える
- 結婚する年齢が高くなっていることについて考える

Q1. 「家庭」ってどんな場所

.....

データ1 < 家庭の役割 >

- 男女ともに、家庭は休息・やすらぎ、家族の団らん、家族の絆を強める場と思う人が多い

Q2. 家庭での男性と女性の役割はどう考える？

.....

データ2 < 家事・育児の負担に関する大学生の意識 >

- 県内大学生は、将来家庭を持ったとき、家事・育児は「夫婦で同じぐらい分担」したいと考える人が男女ともに最多
- 一方で、育児は、約3割の男女が「主として／どちらかといえば妻」の役割と考えている

コラム < 家庭でのトモ活！～石川県民の思い～ >

- 固定的性別役割分担意識の説明
 - いしかわトモ活川柳の紹介
-

< ディスカッションポイント >

- 男性と女性が、性別にかかわらず、協力して家庭を築くために必要なことを考える

Q1. 結婚したら、仕事を続ける？

データ1 < 共働き世帯数の推移 >

- 全国の共働き世帯は年々増加し、夫のみ有業世帯の2倍以上

データ2 < 共働き世帯と夫のみ有業世帯の収支の比較 > (1世帯あたり、1ヶ月間)

- 共働き世帯のほうが、実収入、実支出ともに多い
(実収入は約14万円、実支出は5万円強)

データ3 < 雇用形態別にみた賃金(6月分の所定内給与額) >

- 男女ともに正社員のほうが正社員以外よりも賃金が高い傾向
- 同じ正社員でも、男性のほうが賃金が高く、年齢が高くなるほど、男女の賃金差も大きくなる

コラム < 職場でトモ活を実現するには >

- 男女の賃金格差の要因の説明
(女性の非正規雇用者の比率の高さ、女性の管理職比率の低さ、出産・育児後に再就職するといった勤続年数の差)
- 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なことは、職場環境の整備、企業や組織トップの意識改革、家庭内の協力

< ディスカッションポイント >

- 仕事と家庭のあり方について、家族で考えが違う場合どうすればよいか考える

Q1. 子どもを持つとはどういうこと？

データ1 < 子どもを持つことに対する県民の意識 >

- 県内 20～45 歳の人のうち、6割超が子どもを2人以上持ちたいと考えている。一方、子どもを「予定していない」も約2割いる
- 子どもを持つと生活が楽しく心が豊かになると思う人が多い
- 平成24年10月時点で20代であった人を対象に、8年間、継続して状況を観察した国の調査によると、子どもがいる夫婦は、夫の休日の家事・育児時間が長くなるほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向がある

Q2. 出産する年齢は？

データ2

< 女性の平均初婚年齢と母親の平均出生時年齢の推移 >

- 日本では、晩婚化とともに晩産化が進行

データ3 < 第1子一人当たりの子育て費用年間総額 >

- 中学卒業までの子育てにも一定額がかかる
- 国は、少子化対策として、幼児教育・保育の無償化を実施

コラム

< 子どもを持たないという選択と子どもを持つことの責任 >

- 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖の健康・権利)」が国際人口開発会議で提唱された
- 子どもを持つことについて、持たない選択も含め、自由な意思に基づいて決めることができる
- 子どもを持つ場合には、健康面、経済面を含め、家族として妊娠や出産の準備ができていないかが、子どもの健康を守るうえで重要で、親として大切な責任である

< ディスカッションポイント >

- 子どもがいる場合といない場合の生活の違いを考える

Q1. 家族の家事分担は？

データ1 < 子どもがいる夫婦の仕事等時間と家事関連時間 >

- 夫は、共働き、夫のみ有業世帯ともに1日7時間45分以上が仕事等時間
- 家事関連時間は、妻のほうが圧倒的に長い
- 共働き世帯でも、家事や育児は妻に偏っている

Q2. 家族の介護が必要になったら、仕事とどう両立する？

データ2 < 家庭における高齢者等の介護や看護の役割 >

- 県内の若者は、高齢者等の介護や看護は「夫婦同じ程度の役割」だと思う人が男女ともに最多
- 「妻の役割」は、男女ともに約2割。「夫の役割」は、女性1.1%、男性4.5%と少数

コラム < 夫婦でトモ(共)に子どもの成長を喜び合うために >

- 育児休業の説明
- 男性の取得率の低さと向上に向けた法改正の説明

< ディスカッションポイント >

- 育児休業について考える
- 男性も家事や育児に参加できるようになるには何が必要か考える

補足情報

テーマ

1. 進路

進路はどうする？

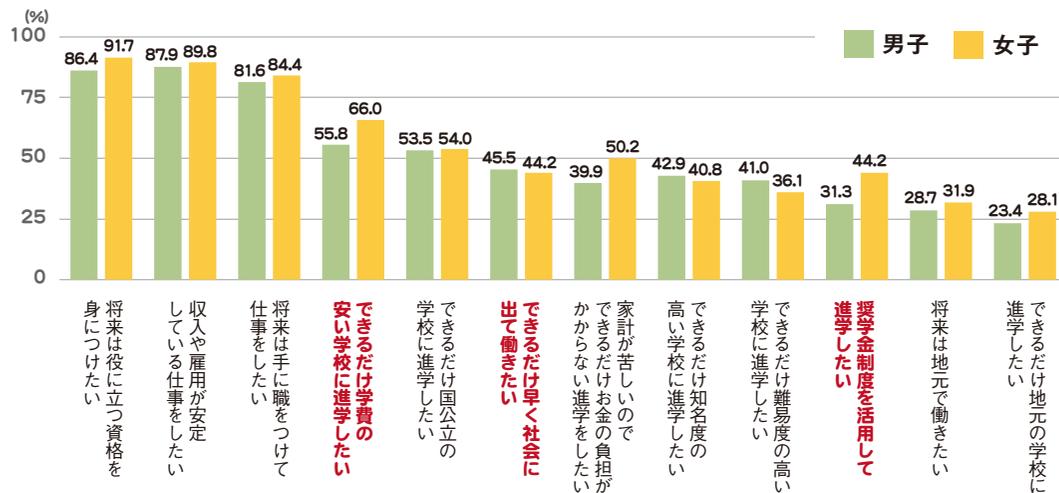
目 的

主体的に進路を選択することの重要性について理解を深める

活用ポイント

- 全国の高校生が進路についてどう思っているかを知り、進路を選ぶときに何を大切にするかを考える。(データ1)
- 進学する場合には、どうしてその学校に進学するのか、しっかりと目的をもって進学先を選ぶことが、その後の充実した学生生活につながるることについて考える。(データ3)
- 進学は費用がかかる一方で、進学することでしか得られない経験もあることについて考える。(データ4)
- 奨学金制度を紹介することで、金銭面を理由に進学ややりたいことをあきらめる必要はないということについて考える。(コラム)

補足データ1 < 進路に関する価値観 >



※項目ごとに「とてもそう思う」「まあそう思う」と回答した人の合計値

【出典】一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ「第8回高校生と保護者の進路に関する意識調査」平成 29 年

男女別で差が大きい価値観の主なものとしては、

- 奨学金制度を活用して進学したい
- できるだけ学費の安い学校に進学したい

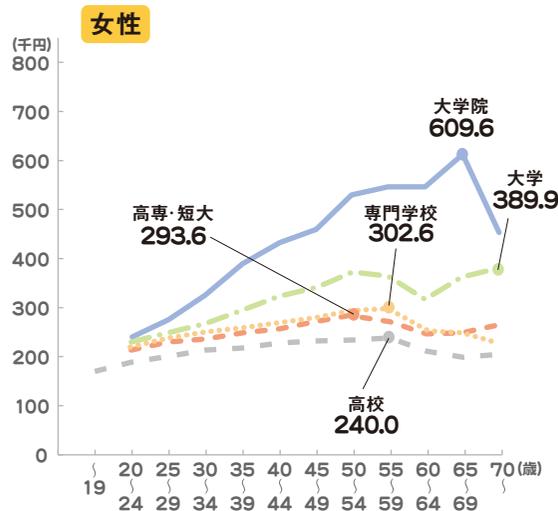
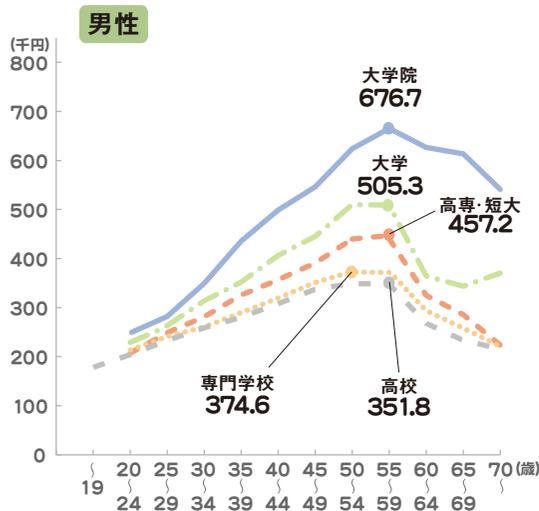
で、いずれも

女子生徒のほうが回答割合が高くなっています。

- できるだけ早く社会に出て働きたい

と思う人は、男女とも4割を超えています。

補足データ2 < 学歴別賃金 >



【出典】厚生労働省「令和3年賃金構造基本統計調査」

学歴別の賃金を比較すると、男女ともに、高校を卒業して就職した場合より、

● 専門学校や大学などを卒業してから就職するほうが賃金が高くなっています。

学歴別に賃金カーブをみると、男女いずれも

● 大学及び大学院の傾きが大きくなっています。

補足情報

テーマ

2. 仕事

どうやって仕事を選ぶ？

目的

自立した生活を営むため、目標をもって生き方や職業選択を考えることの重要性について理解を深める

活用ポイント

- 「どのように働きたいか」、「どのような生活をしたいか」を考える。
- 職業選択を考えるときには、「どんな仕事をしたいか」を考えることに縛られ、「何がやりたいのかわからない」と悩むことも多い。
「どのように働きたいか」、「どのような生活をしたいか」を考えることで、やりたいことがわからない場合、仕事を選びやすくなったり、やりたいことが決まっている場合でも、職業の選択肢が増える。

補足データ1 < 新規学卒就職者の離職状況 >

(平成31年3月卒業者の状況)

	3年目までの離職率	1年目	2年目	3年目
高校卒	35.9%	16.3%	10.1%	9.6%
大学卒	31.5%	11.8%	9.7%	10.0%

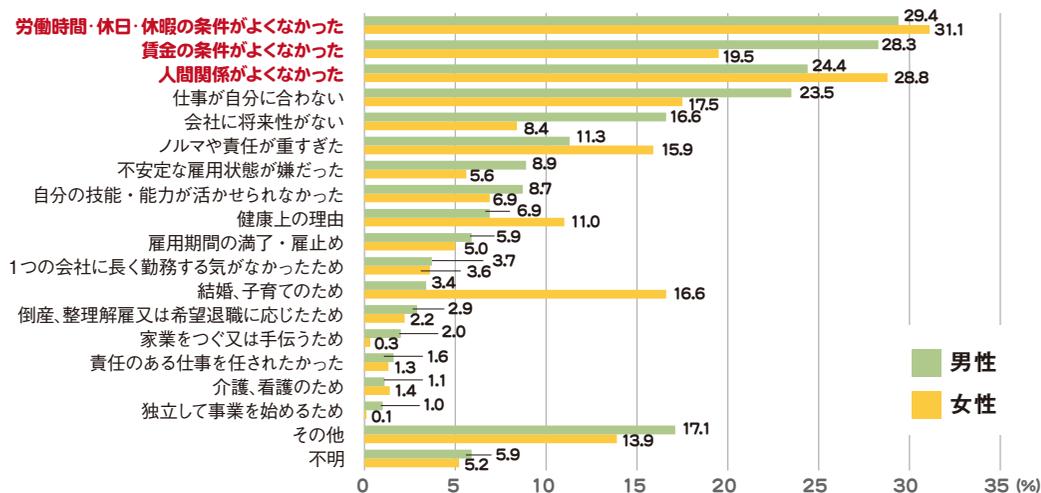
国のデータによると、
高校や大学卒業3年後の離職率は、
それぞれ

● 35.9%、31.5%となっています。

【出典】厚生労働省「新規学卒就職者の離職状況(平成31年3月卒業者の状況)」

補足データ2 < 初めて勤務した会社を辞めた理由 >

(3つまで複数回答)



【出典】厚生労働省「平成30年若年者雇用実態調査の概況」

初めて勤務した会社をやめた主な理由として、

● 労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった

が男女ともに約3割と最も多く、

次いで、男性は

● 賃金の条件がよくなかった

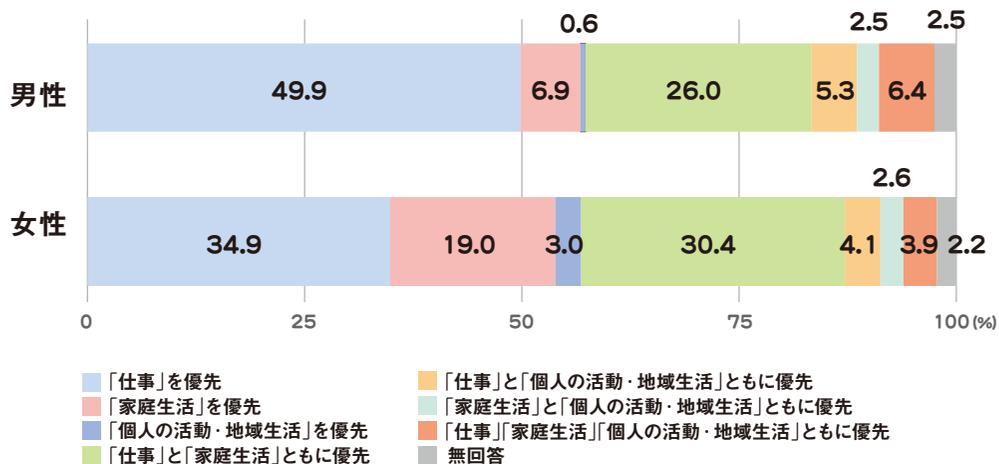
女性は

● 人間関係がよくなかった

となっています。

こうした現状からも、職業選択の際に働き方や生き方について考え、どんな仕事か、どんな職場かを就職前によく知る必要があります。

補足データ3 < 「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度【現実】 >



【出典】石川県「子育てに関する県民意識調査」平成30年度

「仕事」「家庭生活」「個人の活動・地域生活」の優先度の【希望】としては、「3つとも優先」と回答した人の割合が男女ともに多くなっています。

しかしながら、【現実】は

● **仕事を優先**が最も多く、特に**男性では49.9%**と**約5割もの人が仕事を優先する状況**と

なっています。

補足情報

テーマ

3. 結 婚

結婚について、どう考える？

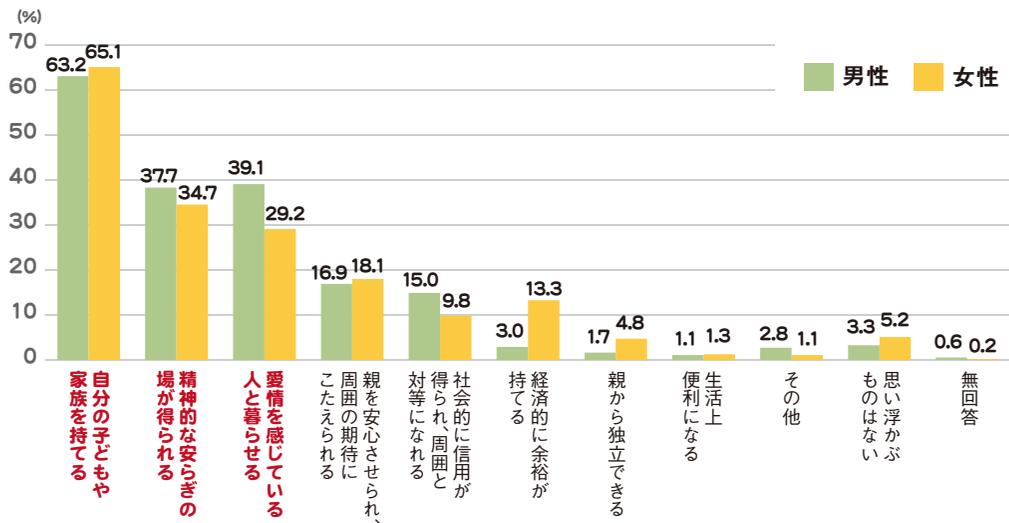
目 的

家庭について考察する

活用ポイント

- 家族のあり方が多様化していることを前提に進める。
- 将来の家庭についてイメージする。

補足データ1 < 結婚の良い点(2つ以内複数回答) >



【出典】石川県「子育てに関する県民意識調査」平成30年度

● **自分の子どもや家族を持てるが**
男女ともに6割を超え、最も多くなっており、
2番目以降の理由とは大きく差が開いています。

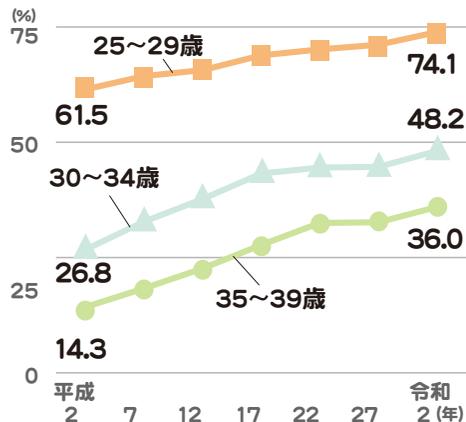
2番目に多い理由は、

男性は
● **愛情を感じている人と暮らせる** (39.1%)
女性は
● **精神的な安らぎの場が得られる** (37.7%)

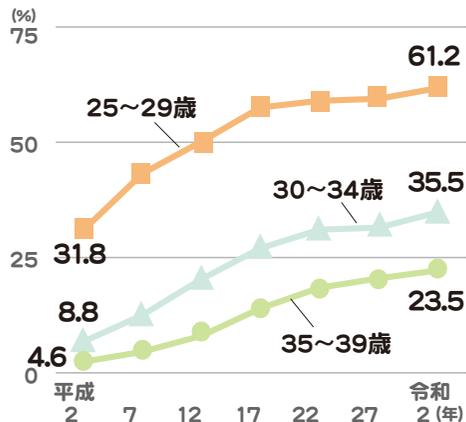
となっています。

補足データ2 < 年齢別未婚率 石川県 >

男性



女性



【出典】総務省統計局「国勢調査」(注)令和2年は不詳補完値による。

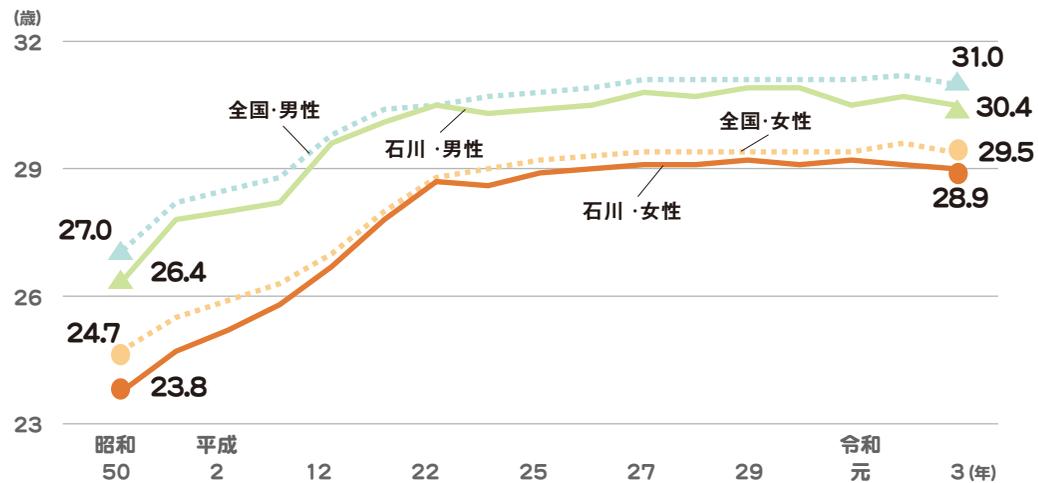
未婚率は、男女ともすべての年代で
上昇傾向にあり、

● 未婚化が進行している状況にあります。

令和2年においては、
30代後半の男性では約3人に1人、
女性では約5人に1人が未婚の状況です。

平成2年と比べると男女ともに
未婚率が大幅に上昇しています。

補足データ3 < 平均初婚年齢 >

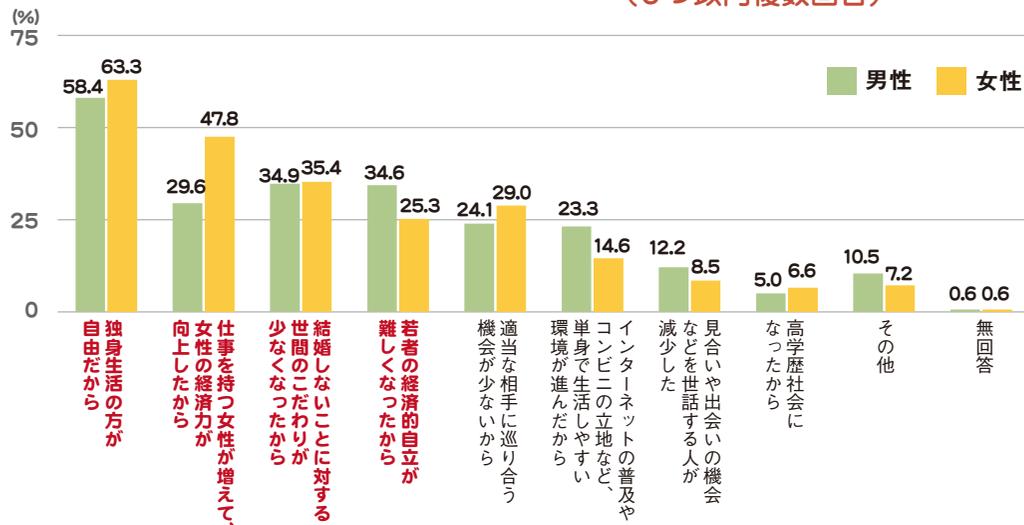


【出典】厚生労働省「人口動態統計」

平均初婚年齢も年々上昇しており、

● 男女ともに晩婚化が進行しています。

補足データ4 < 未婚化・晩婚化が進む理由 > (3つ以内複数回答)



【出典】石川県「子育てに関する県民意識調査」平成30年度

未婚化・晩婚化が進む理由で、最も多いものは、

- 独身生活の方が自由だから
(男性 58.4%、女性 63.3%)

となっています。

- 仕事を持つ女性が増えて、女性の経済力が向上したからは、女性では 47.8% と 2 番目に多くなっていますが、男性は 29.6% となっており、男女で意識の差があります。

- 男性で 2 番目に多い理由は
- 結婚しないことに対する世間のこだわりが少なくなったから (34.9%) であり、
 - 続いて若者の経済的自立が難しくなったから (34.6%) となっています。

補足情報

テーマ

4. 家庭

家庭について、どう考える？

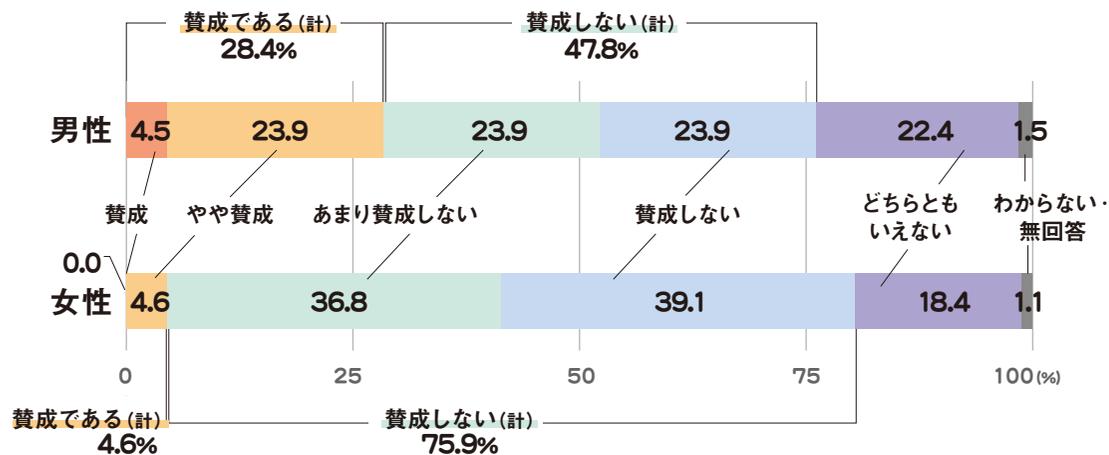
目的

固定的性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方など）に
捉われることなく、仕事と家庭の責任を互いに
分かち合うことの重要性について理解を深める

活用ポイント

- 自分にとって家庭とはどんな場所か考える。（データ1）
- 家庭における役割分担について考える。（データ2、コラム）
- 家事・育児の分担など、性別にかかわらず、家族で協力して家庭を築くことについて考える。

補足データ1 < 「男は仕事、女は家庭」という考え方について (18～29歳) >



【出典】石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」令和2年度

● 女性は**賛成しない(計) (75.9%)**が**賛成である(計) (4.6%)**を上回っています。
71.3ポイント上回っています。

一方で、

● 男性は**賛成しない(計) (47.8%)**が**賛成である(計) (28.4%)**を上回っているものの、**男女間で意識に差がある**ことがわかります。

補足データ 2



いしかわトモ活川柳 2022 入賞作品・ いしかわトモ活エピソード 2021 最優秀作品



川 柳

優秀賞 テレワーク 家事ではめられ 照れワーク (ママ大好きパパ)

優秀賞 わが家では 妻も夫も 二刀流 (ショーベイ)

優秀賞 テレワーク トモに終えたら 家事ワーク (コナコナ)

優秀賞 家事分担 疲れ半分 笑い倍増 (もふもふるふ)

優秀賞 家事育児、 家族で協力、 ごもつトモ (トモチャン)

エピソード

最優秀賞

夜勤明け、台所に「鍋洗ったけど油落ちてなかったらごめんなさい」と息子からのメッセージとピカピカに洗った鍋がありました。共働きの我が家では、息子も娘もさり気なく家事をやってくれます。「男だから、女だから」ではなく、「家族の一員として」やるのがいいなと感じています。トモ活も家族や職場の一員として当たり前に出れるとステキですね。(あきら)

このほかの入賞作品は県HPに掲載しています。 <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/danjo/tomokatsu/kekka.html>



補足情報

テーマ

5. 仕事と家庭①

結婚後の仕事について、どう考える？

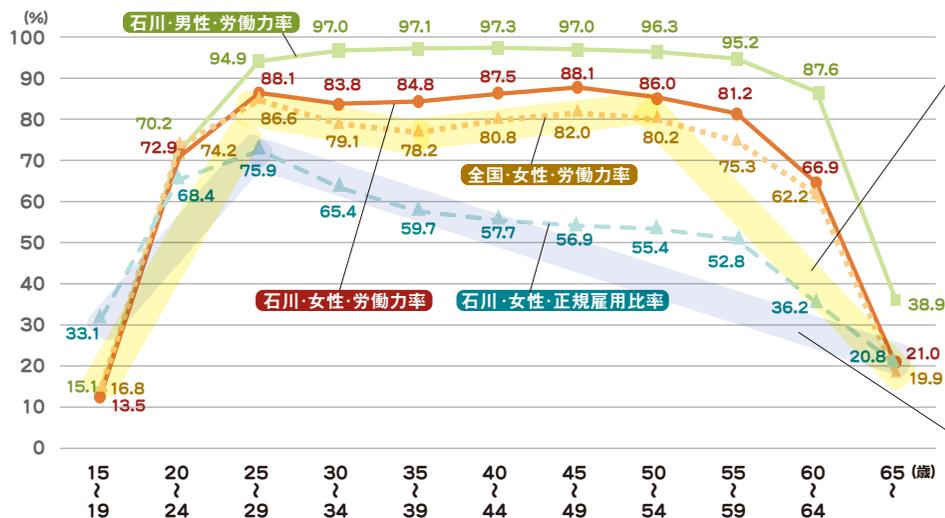
目的

家庭を持った後の働き方と家庭のあり方について考察する

活用ポイント

- 共働き世帯が増えていることや、夫婦の形態によって、家庭の収支や仕事以外のことに使う時間の長さ※に差があることを踏まえ、働き方について考える。(データ1、2) ※総務省「令和3年度社会生活基本調査」(本体(生徒用)41頁データ1参照)
- 男女の賃金格差がある現状を把握し、その要因について知ることにより、職場で男女がともに活躍することの大切さとそれを実践するために必要なことを考える。(データ3、コラム)

補足データ1 < 年齢階級別労働力と正規雇用比率 >



【出典】総務省統計局「令和2年国勢調査」より作成

日本の女性の年齢別労働力率は、
出産・子育て期にあたる30代で低下して、
その後、再就職することにより上昇する、
● いわゆる「M字カーブ」を描いています。

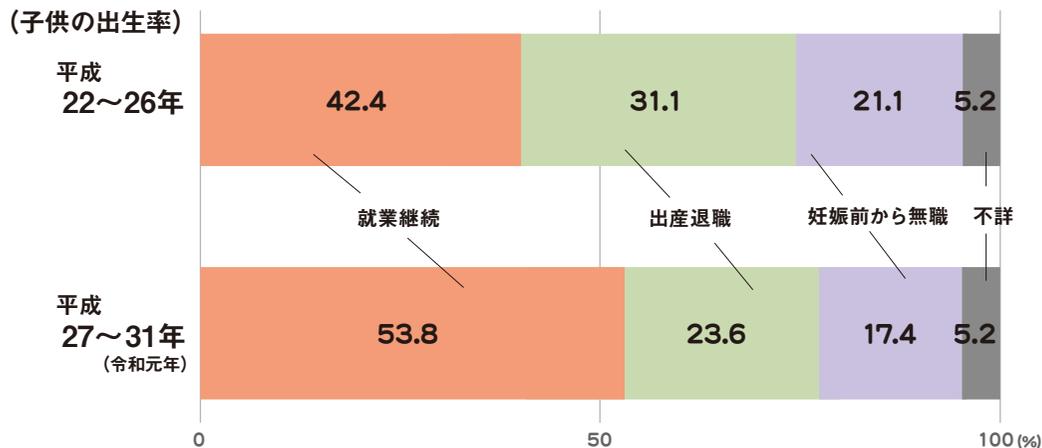
石川県は、全国に比べてカーブがゆるやかになっ
ていて、**出産・子育て中も、仕事を継続
している女性が多い**という特徴があります。
全国的にも、「M字カーブ」は
解消傾向にありますが、これには、
**女性の非正規雇用が増加していることが影響
している**と考えられます。

実際に、女性の就業内容を見ると、
**女性の正規雇用労働者の比率は
20代後半でピークを迎えた後、低下し続けます。**
そのため、女性の正規雇用労働者の比率を
グラフにすると、L字を右に90度倒したような
形になります。

この状態は、内閣府の有識者懇談会において、
● 「L字カーブ」といわれ、
新たな課題として提起されたところです。

内閣府開催有識者懇談会「選択する未来」委員会
「選択する未来 2.0 中間報告」令和2年7月
<https://www5.cao.go.jp/keizai2/keizai-syakai/future2/index.html>

補足データ2 < 第1子出産前後の妻の就業状態の変化 >



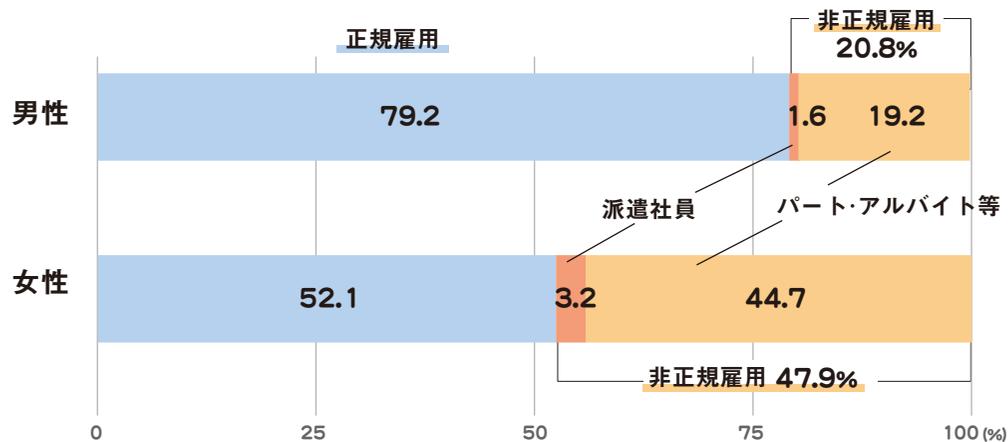
【出典】国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」令和3年

第1子出産後も就業を継続する女性の割合は増加傾向にあります。

その一方で、

- 出産後に退職する女性の割合は、平成27～31(令和元年)で23.6%となっています。

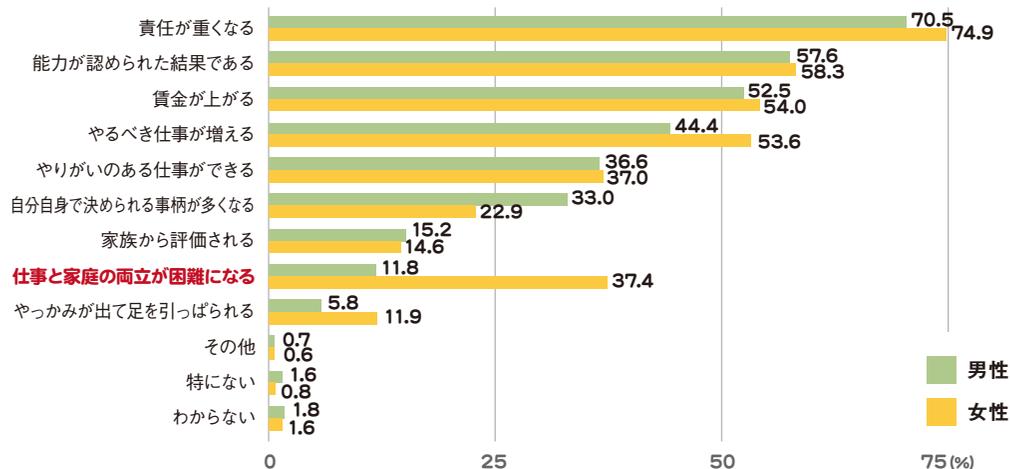
補足データ3 < 雇用形態別雇用者の割合 >



【出典】石川県「令和3年石川県労働力調査年報(基本集計)」より作成

- 石川県の男性の非正規雇用者 (パート・アルバイト、派遣社員、契約社員等) の割合は約2割の一方で、
- 女性の非正規雇用者は約5割となっています。

補足データ4 < 管理職に昇進することについてのイメージ > (あなた自身が昇進することについてのイメージ)(複数回答)

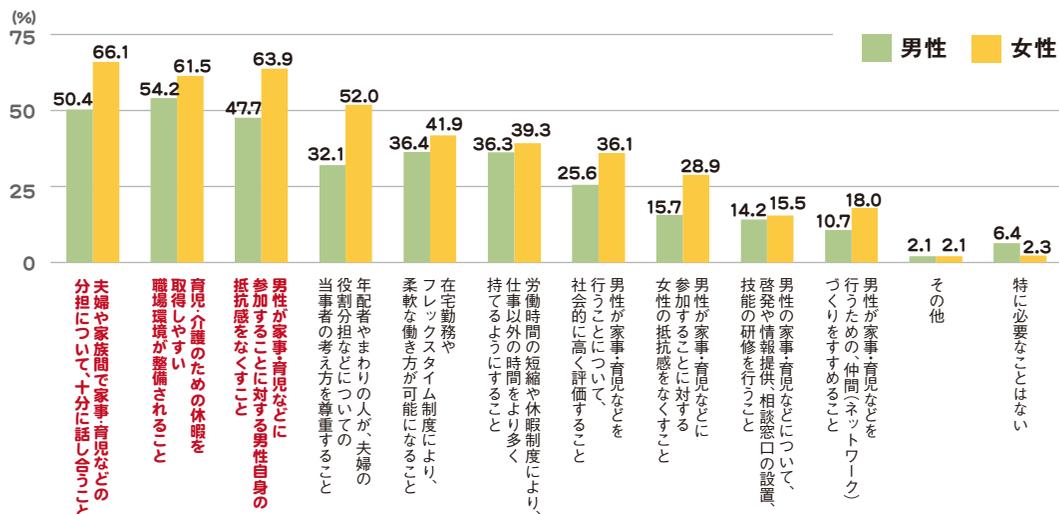


【出典】石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」令和2年度

県民意識調査では、
仕事をしている人に対して、
自身が管理職に昇進することについての
イメージについて尋ねたところ、

- **仕事と家庭の両立が困難になる**
と回答した人の割合は、
特に男女差が大きくなっています。
(男性11.8%、女性37.4%、25.6ポイント差)

補足データ 5 < 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと(複数回答) >



【出典】石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」令和2年度

- 夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと
- 育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること
- 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと

が多くなっています。

補足情報

テーマ

6. 子育て

子どもはどうする？

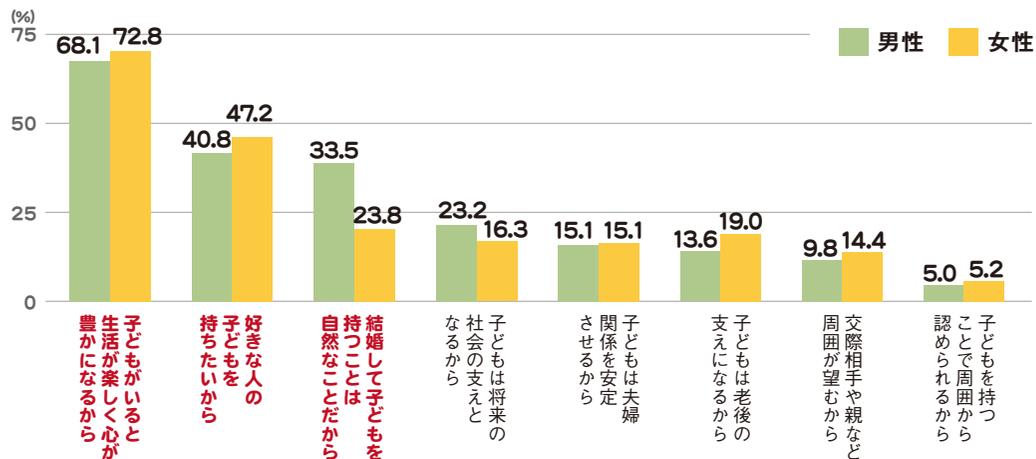
目的

子どもを生み育てることの意義や親が果たす役割の重要性について考察する機会とする

活用ポイント

- 平均出産年齢や、子育てにかかる費用を知ることを通じて、子どもを持つことについて考えるきっかけとする。(データ1～3)
- 子どもを持つことについての権利と親の責任について考える。(コラム)

補足データ1 < 未婚者の子どもを持つ理由（複数回答） >



【出典】国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本調査」令和3年

子どもを持つことを希望する未婚者に、なぜ子どもを持ちたいのか尋ねたところ、

男女とも

- 子どもがいて生活が楽しく心が豊かになるから

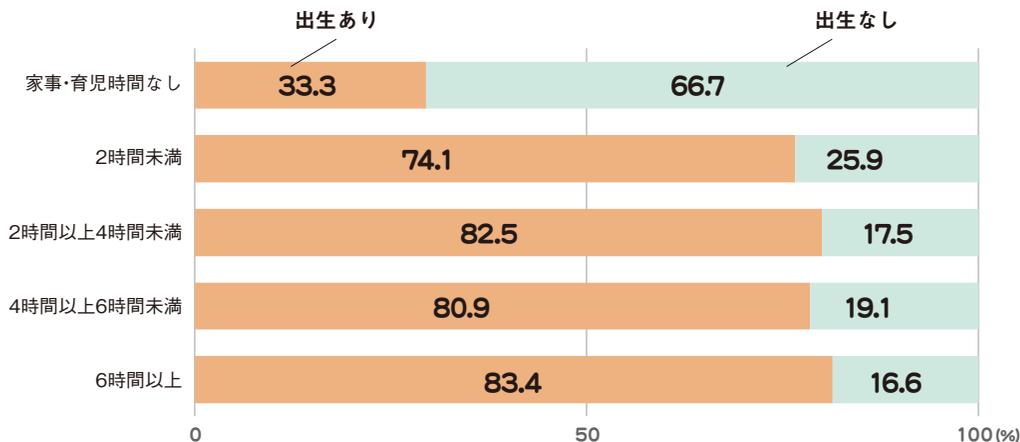
という回答の選択率が最も高くなっています。

2番目に多いのは、男女ともに

- 好きな人の子どもを持ちたいから

となっています。

補足データ 2 **〈 夫の休日の家事・育児時間別にみた8年間の 第2子以降の出生の状況 〉** (平成24～令和2年)



【出典】内閣府「令和4年版 少子化社会対策白書」

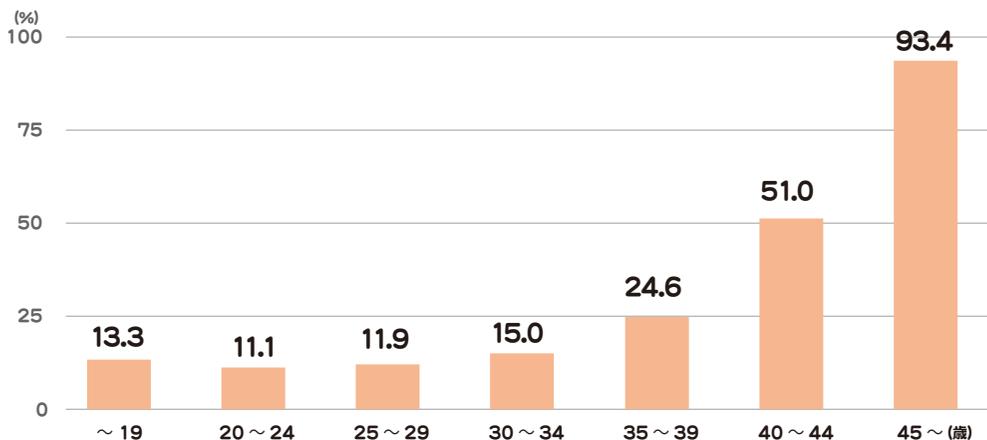
平成24年10月末時点で
20～29歳であった人を対象に、
経年変化の状況を継続的に観察した
国の調査によると、

**子どもがいる夫婦は、
夫の休日の家事・育児時間が長くなるほど、
第2子以降の生まれる割合が高くなる
傾向があります。**

例えば、
夫が6時間以上、家事・育児をしている夫婦の

● **およそ8割に
第2子以降が生まれています。**

補足データ3 < 母親の年齢別流産率 >



【出典】 Nybo Andersen AM, Wohlfahrt J, Christens P, Olsen J, Melbye M. Maternal age and fetal loss: population based register linkage study. BMJ 2000; 320:1708-1712.

妊娠時の女性の年齢が高いと、流産の割合が増加するとされています。

母親の年齢が

● 35～39歳で24.6%、

● 40歳以上で51.0%が

流産しているという海外の報告があります。

**男女とも、
妊よう性(妊娠するために必要な力)は
年齢とともに低下します。**

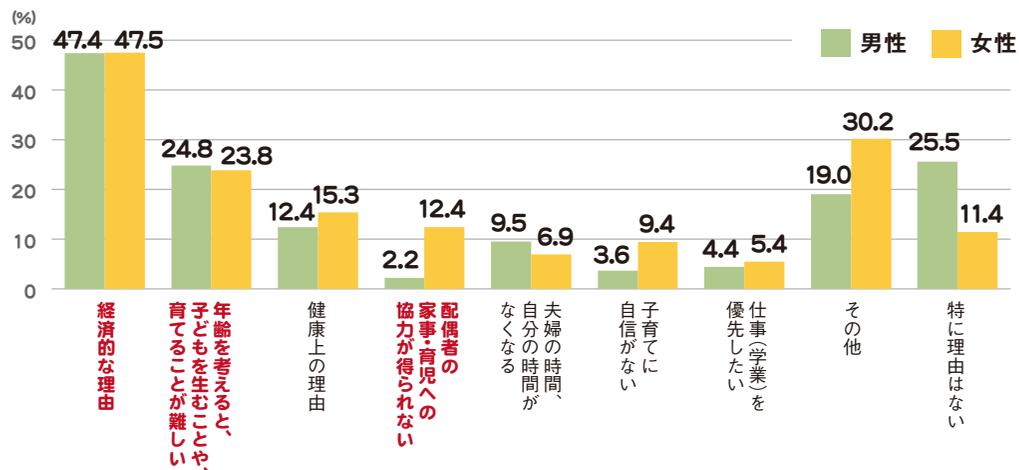
精子の数・運動率は20代から低下し※1、
女性の自然妊娠する確率は30歳以降
徐々に低下する※2とされています。

【出典】

※1 Gao J, Yuan R, Yang S, Wang Y, Huang Y, Yan L, et al. Age-related changes in human conventional semen parameters and sperm chromatin structure assay-defined sperm DNA/chromatin integrity. Reprod Biomed Online. 2021;42(5):973-82.

※2 一般社団法人日本生殖医学会ホームページ参考
http://www.jsrm.or.jp/public/funinsho_qa22.html

補足データ 4 < 理想より子どもの数が少ない理由 > (3つ以内複数回答)



【出典】石川県「子育てに関する県民意識調査」平成 30 年度

子どもを持つ県民に聞いた、理想より子どもの数が少ない理由は、

- **経済的な理由**が最も多く
(男性47.4%、女性47.5%) となっています。

次いで

- **年齢を考えると、子どもを生むことや、育てることが難しい**
(男性 24.8%、女性 23.8%) となっています。

- **配偶者の家事・育児への協力が得られない**は
女性 12.4%、男性 3.6% と
男女差が大きくなっています。

補足情報

テーマ

7. 仕事と家庭②

仕事と家庭生活をどう両立する？

目的

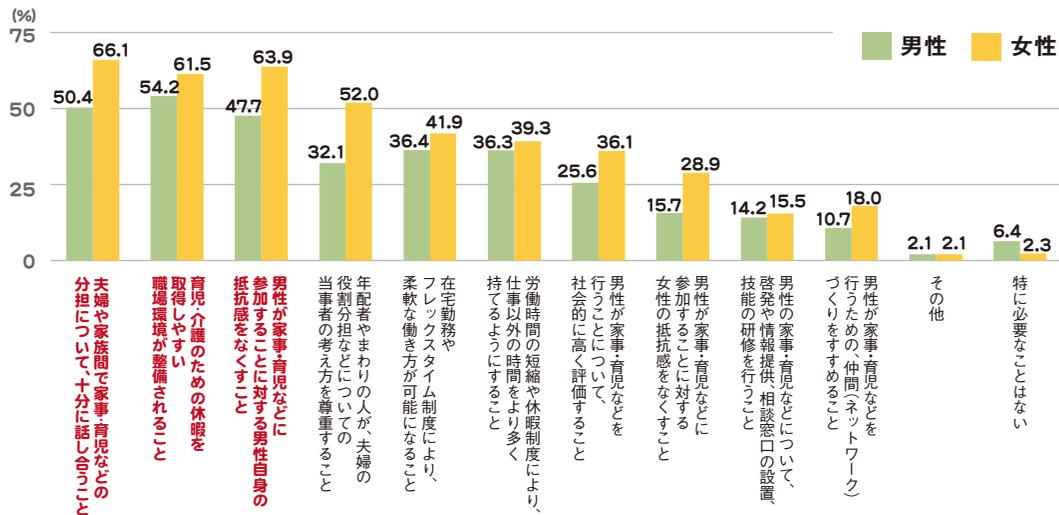
男女がトモ(共)に社会責任と家庭責任を果たす大切さ、
家族の一員として家庭を築くことの重要性について考察する

活用ポイント

- 家事・育児・介護等の家庭責任が女性に偏っている現状を踏まえ、家族間の分担について考える。
(例：分担内容や割合など)(データ1、2)
- 男性が家庭のことに関わる時間が少ないのは、
「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識や長時間労働が背景にあることについて考える。
- 育児休業制度や仕事と家庭の両立について考える。
(例：男性も家庭のことに関わり、家族で協力することの必要性など)(コラム)

補足データ 1

〈男性が家事、子育て、介護、地域活動に〉 参加するため必要なこと(複数回答)【再掲】



【出典】石川県「男女共同参画に関する県民意識調査」令和2年度

- 夫婦や家族間で家事・育児などの負担について、十分に話し合うこと
- 育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること
- 男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと

が多くなっています。